

あらえびす賞

私と戦争と「戦場のメリークリスマス」

紫波第三中学校 1年 北條 詩民子

二〇二三年三月二十八日、世界的音楽家、坂本龍一が亡くなった。

私はこのことをニュースで見るまで、坂本龍一という人を知らなかった。しかし、坂本龍一の死をきっかけに、彼と彼の音楽に興味をもつようになった。偶然、母が持っていた坂本龍一のアルバムをくり返し聴き、坂本龍一についてのテレビ番組を見つけると、時間をつくってテレビ番組を観ていた。たくさん曲があるが、私は一曲の素敵な曲に出会った。その曲は、「戦場のメリークリスマス」。

「戦場のメリークリスマス」を初めて聴いた当時、私はテレビで、ウクライナの現状の映像を何度も目にしていた。ロシアの爆撃で人々の家が壊され、地雷でぼろぼろになった道路には、いくつもの死体が転がっていた。死体の上には、腹を空かせたカラスがのっていて、死体の肉を食べていた。死体はモザイクで隠されていたが、当時の私にとっては、衝撃で、忘れることができない映像だった。

だからこそ、「戦場のメリークリスマス」をリアルな映像と重ねて、想像したのだ。

坂本龍一の代表作である「戦場のメリークリスマス」。高音から始まるメロディは、どこか切なく、とても儚い。私はこの出だしに一瞬で釘付けになった。そして、次に響く、重い空気をまとった和音。テレビで観たウクライナの映像が頭の中に浮かぶ。砲丸の音が鳴り響く中、逃げ惑う人々の悲鳴が聞こえるようだ。この曲の中で奏でられる「レドラファ」のメロディ。私は、このメロディが一番好きだ。ウクライナの人々の心の中を、そのまま音にしたようなメロディだ。そして続く、低温のメロディ。少し前の雰囲気とは違い、悲しみだけでなく、怒りや恐怖、苦痛、憎しみといった、さまざまな感情が入り交じったメロディだ。その後、高音と低音が共に響くメロディとなる。私は、ここの場面だけ、具体的な感情を読み取ることができない。しかし、私には理解することができない複雑な感情だけが伝わってくる。私はこ

の場面が、大好きだ。次に来るメロディは、今までとはまったく雰囲気が変わる。スタッカート強調し、和音の変化したところにアクセントを入れる。とてつもなくカッコいい。ウクライナの兵士が今もなお、諦めずに戦っているのは、故郷を守りたいという強い思いからだ。この思いが音になったのが、この部分のメロディだと私は感じる。そして、最後のメロディへ。くり返し奏でられるこのメロディは、悲しみや恐怖などの感情がいっさい感じられない。ただ「負けない！」という思いだけが伝わってくる。この力強いメロディは、曲としては終わりに向かうが、曲にこめられた感情は、「これからが始まりだ」という未来に向かっていく決意のようだと思った。

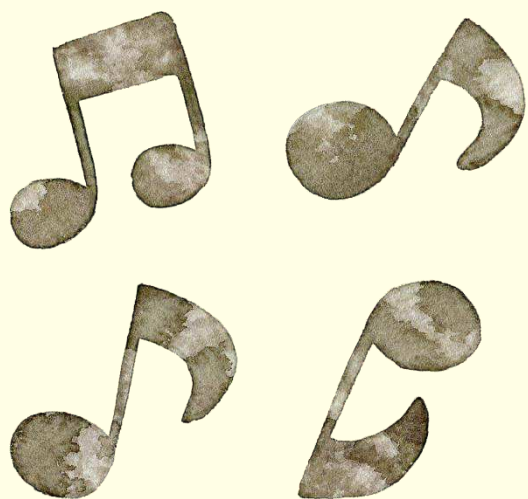
私は今でも、「戦場のメリークリスマス」を初めて聴いたときの衝撃は忘れられない。今までで聴いてきた、どんな曲よりも心をゆさぶられたからだ。その理由はたくさんあるが、その中の一つが、ウクライナとロシアの戦争を無意識のうちに「戦場のメリークリスマス」に重ねていたからだと思う。

私は、ウクライナとロシアの戦争が始まる前まで、戦争のことは学校の授業で習った過去のことしか知らなかった。そして、ウクライナとロシアの戦争が始まって、多少、戦争が身近に感じたとしても、自分には関係のないことだと思っていた。

しかし、「戦場のメリークリスマス」を聴いて、自分がウクライナ人になったような気持ちになった。この曲には、言葉で表せない悲痛な感情が込められていると思った。

私は、将来、作曲家になりたいと考えている。「戦場のメリークリスマス」を通して、戦争や平和に対する関心が深まり、今まで感じたことのない、心を締めつけるような悲しい感情にふれることができた。そして、戦争はあってはならないものだ、と、確信することができた。私も、私の戦争に対する意識が大きく動いたように、曲を聴いてくれる人の意識を自分が創った曲で動かせるようになりたい。世界から戦争がなくなり、戦争で苦しむ人々がいなくなる平和な世界になったらいいなと心から思う。そして「人の心を動かせるような音楽を創る。」これが、私の大きな目標であり、憧れである。

坂本龍一の「戦場のメリークリスマス」に出会えたことを幸せに思う。



審査員講評

あらえびす賞感想文について

「戦場のメリークリスマス」のピアノの音色が浮かんでくるような、詩民子さんの感想文でした。戦争の苦しみ・憎しみ・悲しさを中学生の今、音楽を通して私達に訴える強さを感じます。誰もが願う平和な世の中。「人の心を動かせるような音楽を創る」という夢に向かって、これからも色々な音楽と出会ってほしいと思います。

曲名 戦場のメリークリスマス
作曲 坂本 龍一

教育長賞

音楽の力

紫波第一中学校 2年 森田 徳人

「なんて美しい旋律なんだろう。」

Summer を初めて聴いたとき、僕はそう思った。

僕がこの曲を初めて聴いたのは、中学校での美術の授業中のことだった。作品を仕上げていた時、美術室の隣にある音楽室から、ピアノで演奏された曲が聴こえてきた。その旋律に一瞬で心を奪われてしまい、どうやってこんなに印象に残る曲を作れるのだろうとずっと考えていた。授業中に頭の中に必死に録音し、何度も脳内で再生し続けた。家に帰っても僕は何度もスマホで聴いた。

この曲は落ち着いた小さな音から始まり、少しずつ規模が大きくなって印象的な旋律を迎える。そして一度勢いは弱まるが、またより強くなった印象的な旋律が戻ってきて僕は心を揺さぶられる。

この曲を聴くと、僕は夏の思い出、特に自然豊かな場所に友達という情景を想像する。また、その思い出の情景の心地よさの中にどこか淋しさや儚さを感じさせる。それはなぜか。楽譜を見てみると、「レガート」という記号と「ノンレガート」という記号が繰り返されていることが分かる。レガートは「滑らかに」という意味、ノンレガートは「各音の間に若干の切れ目を持たせる」という意味だ。ノンレガートの切れ目には、懐かしいリズムを感じさせ思い出の美しい部分を思い起こさせる効果、レガートによる滑らかさには過去は帰ってこないという淋しさを感じさせる効果があるのではないかと僕は思う。

また、この曲を知ると同時に、この曲がメインテーマとなっている映画「菊次郎の夏」についても知ることになった。映画のあらすじを知ってからもう一度聴いてみると、映画のあらすじと曲の展開が重なっていることに気が付く。この曲は落ち着いた少し淋しげなリズムで始まるが、それは映画の主人公である正男がどこか遠い町で暮らしている母親に会うためにたった一人で出かけるという物語の幕開けと重なる。またその後の盛り上がりや主な旋

律を迎えるところは、正男が菊次郎と出会い二人の友情が育まれていく場面と、少しずつ旋律の勢いが弱まっていくところは、母親が新たな家庭を築いていたことにショックを受ける場面とそれぞれつながりがあるのだと分かる。そして最後は、より強くなって戻ってきた印象的な旋律と菊次郎と正男が別れる感動的な場面が相まって僕の心を強く揺さぶってくる。その考えぬかれた構成に思わずため息が出てしまう。

僕はこの曲と出会って、音楽には人の心を動かす力があるということを実感した。また、音楽は情景やストーリーも表現できるということも知った。音楽の力は偉大だと強く感じた。

音楽との出会いはいつだって感動を運んでくれる。世界には僕の知らない音楽がたくさんある。僕は一生音楽との出会いを楽しんでいこうと思う。

曲名 Summer
作曲 久石 譲



優秀賞

ユルすぎてなにもかもが楽になる

紫波第一中学校 2年 小林 祐翔

初めて「イージュー★ライダー」を聴いた時こんなにもユーモアに溢れた歌詞の音楽があるのかと、驚きで心がぞわぞわした感じに襲われた。

私は、作詞者が思ったことを飾らずに、ありのままの気持ちを歌詞にし、自らの考えを訴えている曲と初めて出会った気がした。この曲との出会いが私の世界を、広げてくれた気がして嬉しくなってしまった。複雑ではないリズムと優しいメロディーに、凝り固まった自分の心が溶けていくような、ゆったりした気持ちにさせられた。まさしく、私の理想が詰まっているような曲だった。何についての理想かというと、この曲のテーマともいえる「自由」に対する考え方である。私は作詞と作曲を手掛けた奥田民生の思いが気になってしまった。

まず曲名である「イージュー★ライダー」は「イージーライダー」という映画の題名を言い換えたことがわかる。その「イージー」の部分を「ジュー」とし、「自由」と語呂合わせしているところからも、奥田さんの遊び心が感じられておもしろい。一見、メロディーだけを聴くと、ゆるい音楽に感じるが、そこに歌詞を重ね合わせて聴くと、メロディーとのギャップに面白さを感じる。そのメロディーのユルさが逆に「自由」に深みを増す効果があるような気がした。改めて「自由」ということについて、考えてしまうほどだった。

私は日頃、周囲のことを考えすぎて、自分の気持ちを話すことができなかったり、関係を悪くしたくないために、周囲にあわせてしまったりと、余計なことを考えすぎてしまうところがある。その度に重い気持ちになり、全部捨てて、自分らしくできたらどんなに楽だろう。そんな、心の自由にあこがれている自分がいる。

奥田さんの歌っている「自由」とは、どんなことを言っているのだろうか。おそらく、「自分の好きなように生きろ」というようなそんな簡単なことではないと私は思っている。複雑になっている社会、楽ではない人との関わり

方、楽しいことばかりじゃない毎日を、楽しく過ごす方法、それらに折り合いをつけて生きていかなければならない息苦しさを、自由に操作して生きられたらいいのということだろうか。なかなか答えが見つからない。でも、何度も聴いていると、自分の考え方や感じ方などが許されているような、不思議な気持ちになった。そして、人々の日々の考え感じ方は多種多様であり、「違いはあってよいものだ」という、奥田さんからのメッセージのようで、私の心にその「メッセージ」が刺さった。

十代の私には、人生の経験がなさ過ぎて、奥田さんの歌詞をすべて理解するにはまだ時間がかかるだろう。しかし、「自由」という意味深い言葉を、音楽に吹き込み、乗せることで、緩やかにそして軽やかに、人の心にじんわりと残るのかもしれない。この曲は私の物事への考え方やこだわりを柔らかくし、音楽から普段の何気ない日常の中の視野を広げさせ、私の気持ちを軽くしてくれた一曲である。

曲名 イージュー★ライダー
作曲・作詞 奥田 民生

